



さいたま新都心に一番近い学校

# 下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

平成 27 年 10 月 号

平成 27 年 10 月 1 日

さいたま市立下落合小学校

電 話 852-2280

FAX 852-0188

## 豊かな心をもった子ども達

校長 稲垣克行



9月14日（月）・18日（金）に6年生が、近くの幼稚園の年長さんに絵本の読み聞かせと、遊びを通じた触れ合いの時間をつくりました。6年生に比べれば小さな園児たちとの交流のために、ゲームや鬼ごっこなどを準備しました。また「読み聞かせ」では、紙のお面を付けた人物を登場させたり、園児が見やすいように絵本は園児の近くに置き、絵本の後ろでセリフを言ったり、自ら作った絵巻物を使っての読み聞かせをするなど工夫を凝らしていました。立派な6年生の姿を見ることができました。

幼稚園での「読み聞かせ」（6年生）

そのような姿を見る中で、感じたことなのですが、6年生が園児への何気ない心遣をしていることです。6年生は自然に視線を低くして園児の目の高さになるよう努めていること、園児のリズムや感覚に合わせようと、動きが丁寧で優しいことです。このような行為から、6年生の園児への年長者としての優しさや気遣いを感じることができました。本校の取組の中に「友達タイム（1年生から6年生が遊びやゲームを通して仲良くなる活動）」というのがあります。6年生はそこでも、リーダーとした、同様の対応をしています。

人間は本能として、「弱いものを守りたい」、「困っている人を助けたい」などの気持ちを持っており、そのことを実行すると、充実感や爽快感を持つと言います。また、その逆の行為は、嫌悪感や自己喪失感につながると言います。人間として、社会人として成長するためには、この優しさや、正義の心を子どもの生活の中で育てて行くことが大切です。保護者のみなさんは、我が子を慈しみ大切に育ててこられました。その接し方や周囲の大人の行動を見ながら「弱いものを守る心」や「正義の心」などの「豊かな心」を学び育ててきたのでしょう。保護者・地域のみなさんの子どもへの愛情の深さを6年生の子ども達から学びました。学校としても、保護者や地域の皆さんの思いを受け、子ども達の「豊かな心」をさらに育てて行かなければと改めて強く感じました。



<授業研究会を実施しました>

9月24日（木）に、市の教育委員会の先生においでいただき、授業研究会を開催しました。これは、市の委嘱を受けた研究の一環で、コンピュータ等を使って児童の表現力を高めようとするものです。1月19日（火）には、市内の学校に向けて発表をします。ご協力を頂く場面もあるかと思えます。どうぞよろしくお願い致します。